

谷藤正三北海道開発庁事務次官は「第二回世界言論人会議」二百目の第三分科会で「国際ハイウェイの建設について」と題して講演、世界的経済統合における国際ハイウェイ建設の意義を次のように主張した。

谷藤正三 元北海道開発 庁事務次官の講演



谷藤正三氏

ご承知のとおり、アジア地域

の国々はすでに中進的国家体系を持つに至った国々もあります。またまたアジアの各国間には、政治的安定度においても国民の技術能力・教育水準でも大きな格差が存在していません。その理由は、各国間の交通通信システムが不完全であり、真実の報道を得るには多くの時間的ロスという障害に悩まされている国々が多数存在しているからです。

世界的経済統合の目標に向かって、バランスのとれた経済的繁栄を達成し、「世界は一つ」という世界平和の達成を可能にするためには、これらの国々が自由な、しかもグローバルな国際交流を可能にし、各国がその目標に向かって精神的にも経済的にも協力して進むようになることが必要であると言います。

確かに一九九〇年という年は、冷戦とテオロギー時代の終結によって、ポスターレス時代を迎えたとはいってよいでしょうが、それらが直ちに「世界は一つ」という世界平和の実現に近づかせるものには困難であり、今後相当な時間が必要であると思われず、世界のほとんどの国は多民族国家であるというところを十分念頭に入れておかなければなりません。それ故に世界の諸問題の解決には、また新たな問題を生み出しているものについてを考慮しながら対処していくべきであると考えられます。

国際ハイウェイ建設事業団は、一九八一年以来、上記の目的達成のためにアジアにおいて

たふじ・しょうぞう 大正三年秋田県出身。京都大学工学部卒業後内務省入省。戦後建設省に入り、土木研究所長を経て都市局長、総理府首都圏整備委員会事務局長などを歴任。昭和三十一年北海道開発庁事務次官に就任。四十年に退官後セントラル・コンサルタンツ(株)を設立。現在同社社長。

何をなすべきかを検討してまいりました。近隣から具体的手法で実績を積み上げていくには

「世界経済統合」に向け 役割大きい国際ハイウェイ

ためには、国境を超え、宗教を超え、民族を超え、海洋をまたぎ、さらには政治理念・経済観念の差を超えてグローバルな全人類の使命感に共鳴する、今世紀最大の大動員をすることになるであります。

なお八九年度において特に強調しなければならぬのは、アジア共同体の形成を目指すわれわれにとって、九〇年代の飛躍を確実にする中華人民共和国との提携が始まったことです。中国は最近に至り、地域経済の振興は道路建設から始まることに気づき、北京・天津、旅大・瀋陽間に高速道路の建設が始まり、上海・南京間でも間もなく始まるという状態にあります。

広大な国土に高速自動車道を建設するのは大事業ではありますが、われわれにとって北・西・南に向かう高速交通体系のかなめを握る中国とは絶対的に提携して、日韓高速道路は北京で合流するシステムを完成する必要があります。八九年五月には中国高速自動車道、丹東・北京間一キムについて中国の協力を得て可能性調査を行うための調査団を派遣し、現地で予備調査を行い、その結果を同年十一月、北京市での日中合同報告会、ベルートの選定や幾何構造規格について意見の交換調整を行いました。

中国側からのものに本格的可能性調査を早く完成するよう要望されていますので、今春中には第二回現地調査を行う予定にしております。

これによって国際ハイウェイ建設事業団としては、東京から北京までの高速自動車道体系のベース・ラインの完成に向かって前進するようになります。ただ現在、北朝鮮との間に合意が得られていないのは誠に残念であり、すみやかに両者の合意が始まることを願っている次第です。